

里地里山保全・再生の特徴的取組 個票 A（対象地域の概況）

NO.83		石畳地区	生物地理区分		アカマツ林	
			地域区分		中山間地	
所在地	都道府県	愛媛県	地形条件	○ 1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地
	市町村	内子町		4.低地	5.その他	
	集落名称等	石畳	環境要素	○ 1.二次林	2.草地	○ 3.水田
				○ 4.畑	○ 5.小川・水路	○ 6.ため池
				7.池沼・湿地	○ 8.社寺林	9.人工林
				10.その他		

環境要素（対象とする地域に含まれる環境要素）

：面積割合が最大のもの ○：それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
	「農村景観百選」、「美しい日本のむら景観百選」
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
	観光パンフレット等に写真が使用されている、風景探勝や撮影の来訪者が多い、景観関連調査（文化的景観等）の対象地となっている

	 
撮影時期：H20 年 5 月 写真の説明：ため池に架かる屋根付橋。神社への参道になっている。	撮影時期：H20 年 11 月(右上)、H21 年 1 月（左下） 写真の説明：地域づくり運動によって復元された水車小屋。この公園には 3 つの水車があり、毎年 11 月 3 日に水車まつりが開催される。（右上） 茶道炭の窯（左下）

NO.83		石畳地区	取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	愛媛県		○ 2.団体・企業・学校等
	市 町 村	内子町		○ 3.行政による支援施策の活用
	集落名称等	石畳		4.多様な主体が参加・連携する組織体
				○ 5.その他（石畳の宿、石畳炭焼き学校）

取組 主体	主な主体の名称		石畳を思う会、石畳自治会		
	その他の主体の名称		企業組合石畳むら、愛炭企業組合、石畳の宿、石畳炭焼き学校		
目的 ●:主 ○:その他	○	1.農林業を通じた里山や草地の利用（管理）の維持・活性化（伝統的なものも含む）			
		対象・取組内容	地域の伝統文化や景観保全を目的とした「村並保存運動」の実施。 ・水車小屋の復元、水車まつりの実施による都市住民との交流 ・ホタル観測や自然観察会の実施 ・屋根付橋保存や、湧水整備などによる水のある風景の保全 ・湧水池の整備 ・茶の湯炭生産をとおして地域資源の活用、循環型エネルギーを図り、クヌギ林の再生、ひいては農山村の活性化を図る。		
		支援措置	・農地・水環境保全対策（農林水産省） ・愛媛県森林環境保全基金公募事業（愛媛県）		
	○	3.環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用			
		自然観察会	*	石畳自然観察会、ホタルの観察活動	
		環境教育・学習活動			
		里地里山体験・環境保全			
		農林業体験活動	*	ソバの栽培、収穫、ソバ打ち体験 炭焼体験	
		エコツアー その他			
	●	5.地域の良い景観の保全・修復			
		取組内容	・水車小屋の復元、屋根付橋の保存など ・「石畳むら並み博物館」と称した、地域の生活風景保全のための啓発		
	○	対象	生活行事	*	秋まつり（みこし）、亥の子
			資源利用技術		
			その他	*	集落内には炭焼き、石積み、桶作り、水車作り職人がいる。
取組内容		石積み、水車作り職人がおり、景観保全等の活動を通して技術の継承を行っている。			
連携・協働による取組 内容・役割分担等		石畳を思う会、石畳自治会における景観保全からの地域再生 石畳炭焼き学校による炭焼き体験とクヌギ林の植林			
取組の特徴や強調したい点		石畳地区は肱川の支流である麓川の源流域に位置する。「村並み保存」という景観まちづくり活動から農林業を主体とした地域内循環型産業の創出を図り、持続可能な地域づくりに取り組んでいきたい。			

取組の概要	むら並み博物館と称し、生活風景を保全しながら石積み技術等を継承	課題グループ ● 農林業 ● 景観文化
事例の特性	集落景観と管理技術等の継承	
取組の中で他の地域の参考となる点	地域の伝統文化や景観保全を目的とした「村並み保存運動」として、「石畳むら並み博物館」と称した地域の生活風景保全のための啓発を行うとともに、茶の湯炭生産によるクヌギ林の継続的維持、石積み、水車作りの技術の継承などに取り組む。	